

『祖母を支える社会のしくみ』

足立区立千寿青葉中学校 三年二組

佐藤 凜空

私の祖父は二〇〇〇年の夏、私が生まれる前、五十七歳という若さでも膜下出血をおこし、十七年に渡る闘病生活の後、二〇一七年に亡くなった。

その十七年の間、仕事はもちろん出来るはずもなく、祖母も看病のため長く勤めていた仕事をする事が難しくなったそうだ。

五十七歳といえば、世間的には働きざかりと言われる年のはずだが、そんな祖父が働けないと言う事は、給料も入らなくなるという事だし、そうしたらどうやって生活を成り立たせていたのか、医療費もかかるだろうにと不思議に思っていた。だか、母と祖母が話をしているのを聞いて、色々な制度があり、それによって祖父が元気な頃と比べたら大変ではあるが、困らない程度には生活が成り立つ事を知った。

働けない状態になった時、社会保険の仕組みで傷病手当金という制度がある事も知った。また、多額になる医療費も一月あたりある一定の金額まで支払えばそれ以上の負担がなくなる高額医療制度という制度がある事も分かった。また、私がいつも病気やケガで病院に行っても、薬をもらっても、母は支払いを全くせずにいる事を不思議に思っていたが、それは子育て世代の負担をなくすために行われている制度だということも知った。高額医療制度や子供医療の助成制度等の財源が、皆の支払っている保険料と、

税金だと言うことをはじめて知った。

働いている方が納めてくれる税金等により祖母や、私を育てる両親も助けられているのだ。祖母は本当にありがたいといつも言っていた。

税金について私なりに調べてみたものの、種類も多く、とてもすぐにはすべてを理解するのは難しそうだが、今の社会は皆の税金によって、支え合い、成り立っていることが分かった。

私たちの暮らす生活には、もっとたくさん形のを変えた税金の使われ方があると思うと、今までは気付きも考えもしなかった事にも、少しずつ目を向けられる機会になったし、いつか私が仕事をする様になった時は、私たちが納める税金で、助かる人もいるのだと、誇らしく思い、税金を納めることができるだろうと思う。

少子化が進んでいる今、支え合う社会も今後は大変になると思うが、皆の納めた税金を大切に使って、今よりもよりよい支え合いの社会になっていけることが大切だと思った。